

報告①

愛知県史編さんにおける資料調査の実施状況について

加藤規博

- 一 愛知県史編さん事業
- 二 資料調査方法
- 三 資料の所在状況
- 四 収集資料の公開

私は県史編さん室に入り、途中、出入りはありますが、一九年間編さんの実務に携わらせていただきました。県史の編さんは二〇一九年度で終了しますが、この間に行ってきた資料調査の状況について報告をさせていただきます。

今日は、最初に県史編さん事業について簡単に説明し、各部署が行ってきた調査の方法やどのような編集方針で作ってきたかを説明します。そして、近世史部会が行った資料調査のデータの分析を通じて、県内の資料の所在状況についてまとめます。最後に、編さん事業終了後における県史収集資料の公開についてお話しします。

一 愛知県史編さん事業

愛知県史の編さんは平成六（一九九四）年に始まりました。当初は一五年で六〇巻の計画でしたが、途中で計画の見直しがあり、二〇一九年度までの二六年間で全五八巻を刊行する事業となっています。愛知県史の編さんは全国的には後発ですが、規模としては全国でもトップクラスのものになっています。

編さんの目的には、「本県の歴史的発展過程を明らかにし、県民のふるさと愛知に対する理解を深める」「多くの貴重な資料を県民共有の財産として後世に残し、県の学術及び文化の振興に資する」ということが掲げられています。この方針に沿って編さん事業を進めてきました。

県史は大きく分けて三つの構成となっています。一つは地域の歴史を読み解く通史編全一〇巻、一つは県内外で収集した地域の歴史に関する資料を紹介する資料編全三六巻です。資料編では、古代・中世・織豊期は地域に関する

る資料を編年で網羅的に掲載しており、近世・近代・現代は新出の資料を中心に特徴ある構成で資料を掲載しています。残りの一つは別編で、窯業・民俗・文化財・自然の分野別に全一二巻を刊行しました。愛知県史は、資料編が中心であるとともに、全国的に関心の高い織豊期や窯業を扱う巻を設けていることにも特徴があり、県内だけではなく全国からも評価をいただいています。

県史編さんでは、県内外で関係資料の調査を実施し、調査箇所数は二〇一八年度までの集計で延べ八一六四か所です。地元に残されている資料については、単に必要な資料をピックアップして収集するだけではなく、整理も併せて実施してきました。また、原本を集める方法を取れなかったため、写真や複写等による収集が中心となりました。収集点数は一〇〇万点を超え、マイクロフィルムは八一七一本となっています。

資料整理を併せて実施していることもあり、県史編さんの調査では、関係する先生方だけでなく、地域の方々や学生の皆さんにご協力をいただきました。調査の参加人員は、二〇一八年度までで延べ七万四六七六名となっています。

二 資料調査方法

中世史・織豊の二つの部会は、資料編を計七巻、通史編二巻を担当しました。資料編については編年による掲載を基準としています。中世で編年の資料編を三巻、織豊で編年の資料編を三巻、それ以外に中世・織豊期の記録類などをまとめた合同巻一巻という巻構成となっています。刊本調査のほか、既存資料・新出資料について全国で調

査を実施しています。県内では寺社を中心に資料調査を展開しましたが、対象となる資料が限られていることもあり、基本的には資料整理は行わず、調査した資料についてのみカードを作成し、写真撮影等により資料を収集するという方法を取っています。

近世史部会は、資料編を九巻、通史編を二巻担当しました。資料編は地域別・分野別・時期別に編集しています。地域別は、県内を名古屋・熱田、尾西・尾北、尾東・知多、西三河、東三河の五つの地域に分け、地方資料を中心に掲載しています。分野別は学芸と領主、時期別は初期と幕末維新、という構成となっています。

近世部会の資料調査方針については、編さん開始時に先生方の間でいろいろな議論があり、その結果、悉皆調査ということになりました。実際には資料の点数が多いということもあり、完全な悉皆調査に至っていないのが残念なところですが、悉皆調査を目指しつつ、資料整理を含む調査と、既存の目録から収集資料を選択する選定調査の二つを併用する形で資料の収集を行ってきました。こうした調査を通じて、収集した資料だけではなく、資料整理によって明らかになったものや既存の目録のデータ化を進め、愛知県関係の資料をまとめたデータベースを作成することができました。

近代史部会は、三つの部会に分かれて編さんを進めました。資料編は政治・行政、産業・経済、社会・文化の三分野で全一二巻、通史編は時代別に三巻を担当しました。近代は資料の点数が近世、中世に比べてはるかに多いこともあり、調査の対象は公的機関や企業が中心となりました。一方で、旧役場文書や区有文書の調査も実施しており、なかには資料整理を行う場合もありました。また、旧鳳来町、旧額田町、南知多町、犬山市などではまとまった資料が見つかっており、長期間にわたる調査を実施しています。ただ、資料群全体の調査はなかなかできず、基本的には収集した資料の目録を作成するにとどまっています。

では、近世史部会による資料整理について説明します。まず資料を個別に中性紙封筒に入れ、それらを保存用段ボールに入れる方法を採りました。一つの資料群に近世資料だけではなく近代・現代資料も含まれている場合は、これらも整理対象に含めて作業を進めています。資料1点ごとに資料カードを作成し、目録化することで資料群全体を把握できるようにしました。また、選定調査の場合でも、資料の保存状態が悪いものについては袋詰め等の整理作業を実施しました。このように資料の保存を考慮した整理を行ってきました。

次に、資料の収集についてですが、当初はマイクロフィルム撮影が中心でしたが、デジタルカメラの性能がだいぶ上がってきたこともあり、後半はデジタルカメラによる収集が中心になりました。マイクロフィルム化したものについては、プリントアウトしたいわゆる紙焼の形にしています。また、資料収集は県内だけではなく県外でも行いました。県外所在の資料については、編さん事業が始まった頃は今ほどネットワーク環境が発達しておらず、現地に行かないと資料を見ることができないという状況にありました。このため、県史編さんのためだけではなく、編さん事業終了後の公開も念頭に、愛知県関係の資料はまとめて収集する方針を採りました。

最後に、調査情報の管理についてですが、所蔵者情報の管理というところで、当初は全部会を通じて所蔵者や収集資料に関する情報を管理しようと考えて作業を進めていましたが、刊行の事務が差し迫ってくると手がまわらなくなり、最終的には各部会で管理するという状況になってしまいました。これについては、編さん室を閉じるにあたってデータの集約を図っていく方向で整理を進めているところです。全部会の調査情報を同一のデータベースにまとめることで、所蔵者の情報、資料群の情報、資料や文化財の情報を一元的に管理することができるとともに、時代・分野を超えて資料情報の検索ができるようになると考えています。

こうしたことと並行して、収集資料のデジタル化も進めています。平成九年度（一九九七年度）からマイクロフイ

ルムのデジタル化を始め、既にかんりの数が完了しています。デジタルカメラによる撮影データについても、各部会が別々に管理していましたが、全体で一元管理ができるよう、整理を進めているところです。

三 資料の所在状況

資料の所在状況を分析するにあたり、まず愛知県域を七つの地域に分けてみました(図表1)。近世の巻では尾西と尾北を一つの巻に、尾東と知多を一つの巻にまとめています。

近世史部会のデータベースを基に、「所蔵者」の数の状況を、地域別と所蔵者の区分別で集計してみました(図表2)。所蔵者の区分は、機関、自治体、企業などの法人、寺社、個人、地区としました。所蔵者数は県内全体で一八〇ですが、三河地域がかなり多くなっています。これは三河では、自治体史の編さん時に市町村内の資料をかなり網羅的に調査しており、県史はその成果に基づいて調査をしているため把握できた個人の所蔵者が多いことによるものです。所蔵者の区分別では、個人が全体の五一%ぐらい、「地区」とは村や自治区が持っているものですが、これが二二%、合わせて七三%ぐらいになります。

次に「資料群」の数でみていくと、機関や自治体の割合が増加します(図表3)。機関や自治体は、全体の四〇%近い資料群を所蔵しているということになります。このことから機関や自治体による資料の集積が進んでいるということがうかがえます。一方で、個人や地区の割合は全体の半分ぐらいになります。

次に、「資料点数」でみていきます(図表4)。点数の数え方はいろいろあると思いますが、ここでは目録のデー

夕件数でカウントしています。県史で把握している一一〇万点のうち、個人と地区が約半数を占めています。地域別に特徴をみていきますと、東三河では、地区が約七万点と、他地域に比べ突出して多くなっています。これは、山間部で、区有文書Ⅱ村が所有する資料がかなり多く残されているためです。西三河では、寺社の資料が四万七〇〇〇点と、他地域に比べかなり多くなっています。これは三河地域に真宗寺院が多いことも関係していると思います。尾張部はどうかというと、名古屋では機関所蔵が多くなっています。これは、名古屋博物館がかなり資料を集めていることが大きな要因になっていると思います。こうした状況をグラフにしてみました(図表5)。東三河では、地区の資料の割合がかなり高く、西三河では、寺社の資料の割合が結構高くなっていることがわかるかと思えます。

県史が実際に資料調査を実施したものの所在状況をみていきたいと思えます(図表6)。県史が所在情報を把握している約一一〇万点のうち、資料調査を実施したものは約六一万点で、把握資料全体の五五%ぐらいを実際に調査したことになります。このうち写真等で収集したものが約三三万点です。資料群の数では西三河が一八〇と多くなっていますが、これは資料編を刊行する順番に関係があります。西三河を最初に刊行するということで、旧小原村や旧旭町などで、残っている資料を集めて一斉に調査をしたからです。

資料調査と、既存の目録から収集する資料を選定する選定調査に分けて、地域と所蔵者の別にまとめたのがこの表です(図表7)。資料調査分では個人所蔵が多く、約二九万三〇〇〇点を調査しています。これは資料調査全体の四七・九%にあたります。選定調査については、当然ではありますが機関分が約一九万二〇〇〇点とかなり高い割合を占めています。

これは、個人と地区が所蔵する資料のうち複製物がどれくらい作られているかを示した表です(図表8の上)。

個人所蔵分では県史が複製を作ったものが約一六万点で、自治体が複製を作ったものと合わせると、大体七〇%となっております。同様に地区では五六%ぐらいについて資料の複製があるということになります。自治体による調査後に県史が調査に入り、原本を確認しようとしたら所在が分からなくなっていたというケースもあつたことから、複製物の作成は編さんや資料公開の目的だけでなく、資料を後世に伝えていく観点からも大切なことと思われれます。

先ほど、愛知県史では資料原本の収集は行っていないとお話ししましたが、調査後にその原本がどうなつたかについて少しお話しします。調査後、代替わりやそれぞれ個々の事情によつて、博物館・資料館や公的機関に寄贈・寄託された事例がいくつかあります。愛知県は文書館〔編者注・歴史博物館、歴史資料館などのこと〕を持つてなっているので、愛知県公文書館が限定的ではありますが古文書の受け入れを行っています。同館が受け入れた例としては、大脇家文書（江南市、二〇二六点）、大塚三右衛門家文書（名古屋市、三八一点）、加茂郡寺部村文書（豊田市、二三〇点）、湊行館文庫（新城市、七四八二点）があり、そのほか現在手続き中ですが、吉田家文書（名古屋市、七七六四点）があり、全部で一七八〇〇点ぐらいになります。これらはいずれも県史編さんにおいて調査した資料群であり、調査後に所蔵者から保管について編さん室に相談があつたものです。これ以外に、各市町村の博物館・資料館等への寄贈・寄託の事例もいくつか聞いています。県史が整理をしたということで、こういう機関への寄贈・寄託が少しはやりやすくなつたという感じも受けています。

四 収集資料の公開

最後に収集資料の公開についてお話します。集めた資料については、愛知県公文書館に移管して、整理を進めていき、二〇二〇年度中には一部資料の公開を開始することを考えています。また、収集資料のデジタル化を進め、デジタルデータによる公開も考えています。マイクロフィルムについては、八〇%がスキヤニングを終了している状況です。中世史部会や文化財部会が収集したフィルムについては、ほぼスキヤニングが終了しています。ただ、公開用の資料にするためにはまだ画像データの整理が必要で、この整理を今後進めていく予定です。

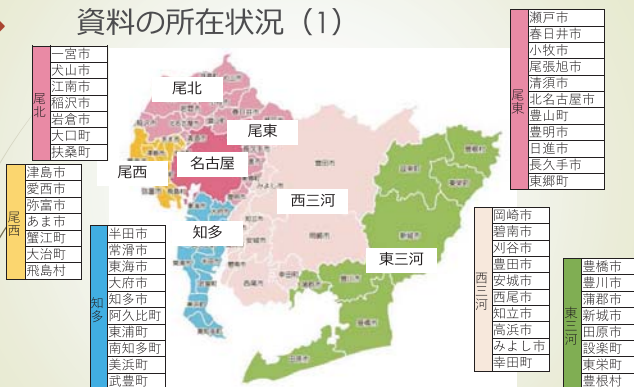
公開の方法としては、二〇二〇年四月に稼働開始予定の愛知県公文書館の検索システムを使って、目録データを公開して行きたいと考えています。県史の資料については四月より少し遅れますが、二〇二〇年度中には公開を開始したいと思います。一部の資料については、資料の画像データもインターネット上で公開できるような形で準備を進めているところです。また、公文書館のホームページもリニューアルし、二〇二〇年三月に公開を開始する予定です。このなかで、愛知県史収集資料を紹介するコンテンツを設ける予定です。こうしたことを通じて地域歴史研究の拠点に公文書館を位置付けていくことができています。

県史編さん事業が終わると、資料所蔵者との関係が切れてしまうことが懸念されます。資料の公開にあたって所蔵者の許諾を得る必要があることもあり、所蔵者との連携は今後とも図っていく必要があると考えています。このため、二〇一九年度の編さん事業終了にあたって資料調査実施分の所蔵者に現況確認を行う予定です。この現況確認については、資料を公文書館に移管した後も数年ごとに行っていく予定です。

以上、愛知県史の資料調査の実施状況について報告をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。

(かとう・のりひろ 愛知県総務局総務部法務文書課県史編さん室)

資料の所在状況 (1)

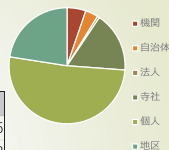


図表 1

資料の所在状況 (2)

地域別・所蔵者区別所蔵者数

地域区分	機関	自治体	法人	寺社	個人	地区	計
名古屋	6	1	6	32	41	9	95
尾西・尾北	10	9		13	39	2	73
尾東・知多	8	16		30	42	18	114
西三河	16	9	1	86	242	134	488
東三河	7	7		37	241	103	395
県内機関	15						15
県内計	62	42	7	198	605	266	1,180
県外	88	12	1	4	15	3	123
計	150	54	8	202	620	269	1,303



- ・近世史部会の目録データベースより作成
- ・県史（近世史部会）の調査・収集対象となったものを計上
- ・自治体史編さん収集資料を収集したものについては原所蔵者ごとに区分した

図表 2

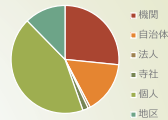
資料の所在状況 (3)

地域別・所蔵者区分別資料群数

地域区分	機関	自治体	法人	寺社	個人	地区	計
名古屋	155	1	8	34	43	9	250
尾西・尾北	38	25		13	40	2	118
尾東・知多	41	61		32	47	19	200
西三河	93	107	1	95	271	135	702
東三河	52	30		37	245	108	472
県内機関	104						104
県内計	483	224	9	211	646	273	1,846
県外	503	26	1	4	15	3	552
計	986	250	10	215	661	276	2,398

図表 3

資料の所在状況 (4)



地域別・所蔵者区分別資料点数

地域区分	機関	自治体	法人	寺社	個人	地区	計
名古屋	60,550	237	2,872	22,510	66,738	4,454	157,361
尾西・尾北	31,950	22,427		13,555	81,784	586	150,302
尾東・知多	35,129	58,087		23,034	98,072	17,778	232,100
西三河	52,445	64,204	4,011	47,805	106,292	31,114	305,871
東三河	42,436	11,996		9,963	78,353	69,552	212,300
県内機関	43,958						43,958
県内計	266,468	156,951	6,883	116,867	431,239	123,484	1,101,892
県外	101,595	7,278	96	657	15,767	45	125,438
計	368,063	164,229	6,979	117,524	447,006	123,529	1,227,330

図表 4

資料の所在状況 (5)



図表 5

資料の所在状況 (6)

調査区別状況

	名古屋	尾西・尾北	尾東・知多	西三河	東三河	県内機関	県内計	県外	計	
全体	所蔵者	95	73	114	488	395	15	1,180	123	1,303
	資料群	250	118	200	702	472	104	1,846	552	2,398
	対象点数	157,361	150,302	232,100	305,871	212,300	43,958	1,101,892	125,438	1,227,330
	収集点数	77,234	83,575	109,515	150,309	109,158	26,768	556,559	77,259	633,818
資料調査実施分	資料群	69	66	70	180	87	33	505	18	523
	調査点数	61,412	115,973	133,108	184,412	95,302	22,208	612,415	17,301	629,716
	収集点数	28,480	64,408	62,938	98,759	52,437	14,464	321,486	16,903	338,389

◆ 西三河では旧旭町・旧小原村などで悉皆的に資料調査を実施している。

図表 6

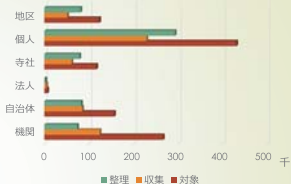
資料の所在状況 (7)

		調査区別・地域別・所蔵者区別資料点数						
調査区分	地域区分	機関	自治体	法人	寺社	個人	地区	計
資料調査	名古屋	19,430		2,655	13,915	22,322	3,090	61,412
	尾西・尾北	11,163	14,775		10,284	79,188	563	115,973
	尾東・知多	10,479	31,658		19,068	54,607	17,296	133,108
	西三河	10,680	32,886		34,912	88,595	17,339	184,412
	東三河		3,451		682	48,338	42,831	95,302
	県内機関	22,208						22,208
	県内計	73,960	82,770	2,655	78,861	293,050	81,119	612,415
選定調査	県外	6,916				10,385		17,301
	合計	80,876	82,770	2,655	78,861	303,435	81,119	629,716
	名古屋	41,120	237	217	8,595	44,416	1,364	95,949
	尾西・尾北	20,787	7,652		3,271	2,596	23	34,329
	尾東・知多	24,650	26,429		3,966	43,465	482	98,992
	西三河	41,765	31,318	4,011	12,893	17,697	13,775	121,459
	東三河	42,436	8,545		9,281	30,015	26,721	116,998
県内機関	21,750						21,750	
県内計	192,508	74,181	4,228	38,006	138,189	42,365	489,477	
県外	94,679	7,278	96	657	5,382	45	108,137	
合計	287,187	81,459	4,324	38,663	143,571	42,410	597,614	

図表 7

資料の所在状況 (8)

	対象点数	複製状況			
		県史	自治体史	計	割合
個人	431,239	162,844	138,189	301,033	69.8%
地区	123,484	26,752	42,365	69,117	56.0%



所蔵者区別収集・整理割合

	機関	自治体	法人	寺社	個人	地区	計
対象点数	266,468	156,951	6,883	116,867	431,239	123,484	1,101,892
収集	124,375	85,183	4,843	61,111	229,438	51,609	556,559
	46.7%	54.3%	70.4%	52.3%	53.2%	41.8%	50.5%
整理	73,960	82,770	2,655	78,861	293,050	81,119	612,415
	27.8%	52.7%	38.6%	67.5%	68%	65.7%	55.6%

図表 8